

●9月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施。保護者アンケート実施 これらの結果を考察して以下にまとめました。

*評価：A「十分に達成された」 B「おおむね達成された」 C「やや達成されなかった」 D「達成されなかった」を表しています。

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
進んで学び 豊かな心をもって たくましく生きる子 <めざす姿> 自ら気づき 友と考え のびのびと表現する子ども	○かしこく《学力向上》 問いをもち 友とかかわりながら 追究する子	B	・社会科の全校研究授業では、グループごとホワイトボードに意見を記入して発表する実践を公開した。多角的に見たり・考えたりしながら学ぶ姿が見られた。	・表現する力が伸びてきている。今後も表現の場を作り、やり方を具体的に示し、繰り返し体験させることを大切にしていきたい。
	○やさしく《関係力向上》 相手のことを考えて 行動できる子	A	・コロナ渦ではあったが、実施方法を工夫しながら「西小アドベンチャー」や「なかよしタイム」を実施することができた。ペア学年で楽しく交流することができた。	・来年度も新型コロナウイルスの影響で、今までのような異学年交流は難しいと思われる。しかし、方法を工夫しながら、できるだけ交流の場を計画していきたい。
	○たくましく《体力向上》 身心共に健康で 粘り強く取組む子	B	・4月にできなかった「身体みがき」の講習会を、9月に実施することができた。また、テレビ放送を利用して、新しい「身体みがき体操」を定期的に紹介することができた。体育も、マスクを着用しながら可能な運動に取り組む、健康な身体作りに取り組んだ。	・「身体みがき体操」は、年間通して取り組んできた。しかし、児童アンケートを見ると、その効果を実感できている児童が少ないことが分かった。今年度できなかった朝の活動での「身体みがき集会」を計画するなど、実施方法や評価方法の工夫を考えていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	単元成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇運動(身体みがき),ドリル(頭みがき),表現(声みがき),人権(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ、実態に応じた内容で全校で実施し、伸びを評価できたか。	B	・昨年度の反省を生かし、「クラスみがき」の時間を週1日確保し、学級独自の活動を行うことができた。 ・4学年は、単元「マスク大作戦」を通して、地域の方、保護者、先生方などたくさんの方とつながりを持って活動することができた。	・本年度は「頭みがき」の時間を増やして、教科学習の時間確保に努めた。しかし、内容は各クラスに任せたので、取り組み方や内容に学級差が出てしまった。もし来年度も同様の「みがきタイム」の取り組みをするのであれば、内容をより具体的に吟味していきたい。
		◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか。	A	・支援が必要な児童は、保護者とともに「個別の指導計画」を作成し、支援会議の折に評価し、成長を確認し合うことができた。 ・連絡帳で保護者に様子を伝えたり、医療機関と連携を取ったり、よりよい支援のあり方を探ることができた。	・支援が適切にできた例を全職員で共有し、広めていけるとよい。学級経営の計画やまとめの研修会では、このような点について大切に扱っていきたい。
	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心にしながら基礎学力の定着が図れたか。	B	・パターン化することにより、短時間でも集中して効率的に取り組むことができた。	・児童アンケートを見ると、「頭みがき」の効果があまり実感できていない様子も見られる。評価方法を工夫し、成果を児童にフィードバックできるようにしたい。
			繰り返しの「声みがき」を中心としながら、自己表現力の向上を図れたか。		・本年度は取り組むことができなかった。	
			読書の積み重ねや読み聞かせを通して、本に親しむ子どもの姿が見られたか。	A	・「ぶんぶんぶん」の読み聞かせも楽しみにしているが、「自分で読みたい」という気持ちを持つ児童も増えてきており、本に親しむ姿が見られた。バリューブックスさんから本を選ばせていただき喜んでいた。	・児童会活動で図書館利用を呼びかけたり、子どもたちによる本の紹介をしたり、子どもたちの中から読書への関心を高める取り組みができるとさらによいと思われる。

教育活動		家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣を身につけることができたか。	B	・「紡ぐ」に担任がコメントを記入することで、個々の児童への声かけになったり、日々の評価をしたり、その活用を習慣化することができた。	・来年度も「紡ぐ」の活用を継続していく。 ・保護者アンケートの結果から、ネットやゲーム等のメディアとの関わり方が、家庭でも課題となっていることがわかる。「紡ぐ」の記入も、その対策の一つとして取り組んでいきたい。	
	生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子ども同士の繋がりを深めることができたか。	B	・「西小アドベンチャー」は、方法を工夫し、感染拡大防止をしながら実施することができた。ペア学級との貴重な交流の場になり、子どもたちも喜んできた。	・児童アンケートの結果から、「自分からあいさつができている」という観点の評価が低かった。明るく元気なあいさつをし合う雰囲気を、学校全体で高めたい。児童会活動でも取り組んでいけるとよい。
			生活科や総合的な学習を通して、地域の理解や繋がりを深められたか。	B	・郵便の仕事の学習では、自主学習として、自分から進んで郵便局に質問に行く等の意欲的な姿も見られた。 ・5年生の米作りでは、感染拡大防止に配慮しながら、米の収穫まで無事に終えることができた。実行委員の方々、ボランティアの皆様に感謝したい。	・児童アンケートの結果を見ると、地域の方々と一緒に学習しているが、そのことを自覚できていない児童が多いことがわかる。子どもたちにも地域の方々とつながりながら学習するよさがわかるよう指導していきたい。
		◇心と身体みがき	「身体みがき運動」を中心に身体の健康の維持や向上を図られたか。	B	・毎朝「身体みがき」の時間を位置づけ、取り組むことができたクラスもある。 ・身体のバランスをとる運動は、継続して取り組んだ成果が見られた。 ・床に手をつく運動は、感染拡大防止の観点から考えると、抵抗があった。	・確実に向上したという成果がわかりにくい面がある。しかし、「身体みがき」が子どもたちの身体にとって大切な運動であることも確かである。継続と評価方法について検討し、子どもたちにもより成果が実感できるような工夫を考えたい。また、感染拡大防止を踏まえ、体操の内容も吟味したい。
	無言清掃や道徳教育を通して、頑張る気持ちや人権感覚を高められたか。	B	・前期は感染拡大防止の配慮から、通常通りの清掃ができなかった。しかし、後期は少しずつ児童ができる清掃を増やしていくことができた。ぞうきんがけに熱心に取り組む姿が多く見られた。	・児童アンケートの結果から、「だまってすみずみまできれいに」という評価が低かった。本年度は清掃前にめあてを考えたり、清掃後の振り返りが十分できなかった。来年度は、毎日ではできなくても、清掃についての取り組み方について考える時間を持っていきたい。		
学校運営	地域との	◇地域の素材・人材を活用した教育活動	地域の素材・人材と関わりを持った学習活動が展開できたか。(地域探検、社会科見学、米作り等)	A	・公共交通機関を使って遠出ができなかった分、身近な地域を見直すきっかけになってよい面もあった。教師にとっても、教材研究を通して地域を知る機会になった。	・5年生は高原学習に行けなかったため、社会見学として懐古園や佐久子ども未来館に行った。来年度もコロナの影響が心配される中、このように、新しい学習活動を模索していきたい。
	連携	◇信州型コミュニティスクールの推進と学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し、活用するとともに、広く広報できたか。(見守り隊、読み聞かせ、米作り、高原学習等)	A	・コロナの影響が大きい中、多くのボランティアの方々にご協力いただいた。地域の方々に支えていただいていることを実感した。 ・「ぶんぶんぶん」のボランティアの方に読み聞かせをしていただきありがたかった。	・読み聞かせについては、自分で読みたいという児童もいるため、ボランティアの方の読み聞かせとバランスをとりながら本に親しむ機会を持たせていきたい。
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修や地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研究会や生徒指導研修会、非違行為防止研修会を継続的に行い、職員の意識を高めることができたか。	A	・全校研究授業では、参観する職員が別室でモニターを見たり、前半と後半で参観を入れ替わったり、密にならないように工夫しながら研修することができた。	・来年度も対外的な公開授業が予定されている。感染拡大防止に努め、創意工夫しながらどのような授業が公開できるか研修を深めていきたい。